

“给他饭吃”について

On gei ta fan chi

伊藤 大輔
Daisuke ITO

Keywords : serial verb construction, ditransitive construction, pivotal construction, head, modifier

キーワード : 連述構造, 二重目的語構造, 兼語式, 主要部, 修飾語

0. はじめに

小論は、次のような例を議論の対象とし、これらの理論的位置づけに関する従来の説に再検討を加えることを目的とする。

- (1) a. 给 他 饭あ 吃
 gei ta fan chi
 与える 彼 飯 食べる
 彼に飯を与えて食べさせる¹⁾
- b. 我送给他书看。(朱德熙1979/1980 : 152)
 私は彼に本を贈って読ませる。
- c. 你递给我一杯水喝。(朱德熙1982 : 173)
 水を1杯私に渡して飲ませてくれ。
- d. 他借给我一枝笔写信。(同上)
 彼は私にペンを1本貸して手紙を書かせる。

(1) の各例は共通して以下の特徴を持つ。まず述語部分 (“给他饭吃” “送给他书看” etc.) は V1 N1 N2 V2 という配列になっており、全体で概ね「N1がN2に対してV2の動作を行うようV1の動作によって仕向ける」という意味を表す。名詞句の動詞句に対する意味役割について述べると、N1は(1a-d)のいずれにおいてもV1の受領者(recipient)ないし受益者(benefactive)であると同時にV2の動作主(agent)でもある。一方N2は、V1に対しては受動者(patient)ないし対象(theme)であり、V2に対しては(1a-c)のように受動者となる場合もあれば、(1d)のようにそれ以外の意味役割(たとえば(1d)では道具(instrument))

である場合もある。ところで、(1)の各例はいずれも二重目的語構文であるV1 N1 N2にそれぞれV2が付加されたものと捉えることが可能である(詳細は3.1を参照)。その点に基づき、論述の便のため、上述の条件を満たす(1)に代表されるような諸例を以下では「拡張二重目的語構文」と総称することにする²⁾。

以下、第1節では拡張二重目的語構文を連述構造とする従来の分析には問題が伴うということを描する。第2節では、実際の用例においても拡張二重目的語構文が散見されるということを確認し、それらの内訳を観察する。第3節では、拡張二重目的語構文の理論上の位置づけについて検討する。そこでは、拡張二重目的語構文を連述構造として扱う従来の処理に伴う問題点が指摘され、代わりに二重目的語構文の一種として扱うことがひとつの結論として提案される。

1. 問題の所在

朱徳熙1982および朱徳熙1983によれば、拡張二重目的語構文“送给他书看”は“送给他书+看”という構造を持つ連述構造である。一般的な学校文法においても“送给他书”と“看”の並んだいわゆる「連動文」以外に帰属先はないように思われる。しかし、拡張二重目的語構文は、連述構造あるいは連動文として一般によく言及される(2)のような例とは明らかに一線を画する。

(2) a. 他回家吃饭。

彼は家に帰って食事をする。(相原他2016:96)

b. 她骑自行车上班。

彼女は自転車に乗って出勤する。(同上, 以上日本語訳は原文)

(1)のような拡張二重目的語構文は、次の3点において(2)の例と異なる。

(3) a. 2つの動詞句の間に介在する名詞句が(2)では1個であるが、拡張二重目的語構文では2個である。

b. 2つの動詞句の動作主が(2)では同一であるが、拡張二重目的語構文では異なる。N1はV1の受領者ないし受益者とV2の動作主を兼ね、いわゆる兼語式(pivotal construction)に類似した特徴を具える。

c. Li and Thompson 1981によれば、拡張二重目的語構文に該当する次の文のV2は非現実(irrealis)である。

他/她给了我一碗汤喝。

S/He gave me a bowl of soup to drink. (L&T 1981: 619)

したがって、拡張二重目的語構文を連述構造の一種として処理するならば、拡張二重目的語構文の(3)に挙げたような特殊性について何らかの説明が必要である。一方、そうした特殊性に鑑みて連述構造と別のものとして扱うことは現行の文法理論においては自明の理ではなく、そうするためには従来の原則に若干の修正を加えることが必要となる。以上の2つの立場のうちどちらが妥当であるかということについては、第3節で議論することになる。

2. 実例調査とその結果

拡張二重目的語構文の理論的位置づけを検討するのに先立ち、同構文が実際の用例に存在するか否か、およびどのような形で存在するかということを確認することにする。

今回は、北京大学中国语言学研究中心CCL语料庫³⁾にあるデータのうち、王朔の作品(約146.8万字)をサンプルとした。輿水1985:425は、拡張二重目的語構文に該当する例について「第一の成分の動詞は“給”のほか、授与の意味をあらわすものにかぎられ、“給”と複合することが多い」と指摘している。それを踏まえ、今回はまず“給”の用いられた例を全て抽出し、次にその中に拡張二重目的語構文がどの程度存在するかを調べた。結果は“給”の総数2199例中15例(0.68%)であった。

15例中、N2がV2の受動者である例が9例を占めた。なお、V1が“V給”となっているのは(4i)の“借給”1例のみであり、他は全て“給”であった。

- (4) a. 我们讲的是革命的人道主义，没打你骂你，给你饭吃，虽说睡得晚点，可我们两个人不都在陪着你。(『枉然不供』)
- 我々が標榜しているのは革命的な人道主義だ。殴りも怒鳴りもせず、飯を食わせてやっている。寝るのはやや遅くなるが、我々ふたりも君に付き合っているじゃないか。
- b. 为什么不给孩子饭吃? (『看上去很美』)
- なぜこの子に飯を食わせてやらないんだ?
- c. 那你吃谁的饭? 谁给你饭吃? (『我是你爸爸』)
- じゃあおまえは誰に食わせてもらうんだ。誰が飯を食わせてやるんだ。
- d. 给我一张看看，咱也见识见识咱们的合同书。(『懵然无知』)
- 1枚見せてくれ。私も我々の契約書を見たい。
- e. 没意见，娶过来倒插门都没意见，到时候给我块糖吃就行了。(『我是你爸爸』)
- 何も文句はない。嫁をもらおうが婿養子に出ようが何も言うことはない。そのときに結婚祝いの飴さえひとつ食わせてくれれば構わない。
- f. 我给姐夫烟抽，她也不高兴，说我抽烟她都不赞成，现在世界上肺癌发病率如何高。(『浮出海面』)
- 私が義兄に煙草を渡して吸わせても彼女は不機嫌になり、「あなたが煙草を吸うのにも反対よ。今世界で肺癌の罹患率がどれだけ高いことか」と言った。

- g. 即使是休假，公出，民航也给她们飞机乘的。(『空中小姐』)
 休暇であれ公用外出であれ，民航は彼女らを飛行機に乗せてくれる。
- h. 我妈都没给我气生，当你老婆到受起你的气。(『永失我爱』)
 母も私を怒らせたことはなかったのに，あなたの妻になったらあなたに怒らされるなんて。
- i. 两个孩子仍在窗外的阳光中说话儿，女孩子好像借给男孩子一本书看，他们在谈论那本书的印象。(『我是你爸爸』)
 ふたりの子どもは相変わらず窓の外の陽光の中で話をしている。どうやら女の子は男の子に本を1冊貸して見せていて，ふたりはその本の印象について語り合っているようだった。

一方，N2がV2の受動者以外であるのは次の6例であった。N2は(5f)を除けばいずれも抽象名詞で，V2の動作の遂行に必要なとなる事物を表す。

- (5) a. 警察也灰了心，答应给我时间细想⁴⁾，过几天再来找我，让我把复员后到工作前这段时间都干了什么，见过什么人，去过哪里都写下来，到时候他们来取。(『玩儿的就是心跳』)
 刑事も意気消沈し，私によく考える時間を与え，数日後に再び訪ねてくることを承認した。復員後仕事を始めるまでの間に私が何をし，誰と会い，どこに行ったか全て書き記すように言った。できたら彼らに取りに来るという。
- b. 我给你们几天考虑，好好想想，你们会损失什么。(『懵然无知』)
 考える時間を数日あげましょう。何を失うことになるか，しっかり考えてごらん下さい。
- c. 这是我们小时候常玩的一种杀人游戏，几个人扮凶手，其余的人扮官兵，给凶手几分钟的时间四处藏匿，然后官兵出动追捕。(『玩儿的就是心跳』)
 これは小さいころよくやった殺人ゲームで，何人かが殺人犯に，残りが兵隊に扮し，殺人犯にあちこちに隠れる時間を数分間与え，兵隊が逮捕するべく出動するのだ。
- d. 作为凶手，我给你充分的自由选择特别告别人世的方式，我倒不在乎我是不是名不副实。(『玩儿的就是心跳』)
 殺人犯として，どのようにこの世に別れを告げるかを選ぶ自由をおまえに与えよう。私は自分が名ばかりになろうが気にしない。
- e. 谁给你的权力不许孩子吃饭?⁵⁾ (『看上去很美』)
 誰が子どもにご飯を食べさせない権利を与えたのか。
- f. 他亲口跟我讲，到时候就说搞不到通行证，把你隔开，我们倒一圈彩电，最后给你千把块钱打发一下。(『橡皮人』)

あいつは自分で私に言った。いずれ通行証が手に入らないと言っておまえを隔離し、テレビを転売してひと稼ぎし、最後に生活の足しにおまえに1000元ぐらい渡すのだと。

興水1985:425によると、拡張二重目的語構文に該当する例には“借我本书看”のように“给”を伴わないものも見られるという。そこで、授受動詞で“给”を伴わない用例を検索したところ、検索した限りでは王朔の作品には拡張二重目的語構文の例が見当たらなかったが、他の作品には該当例が見受けられた。

- (6) a. 喂，三姑，有没有蜡烛，借我一支使。（马兰『猪大肠的故事』）ねえおばさん、ロウソクある？1本貸してよ。
 b. 后来我们分别时我说我要送你一件首饰留作纪念。（张贤亮『习惯死亡』）その後我々が別れるとき、私はあなたの記念用に首飾りをひとつあげよう、と言った。

3. 拡張二重目的語構文の統語分析

前節では、拡張二重目的語構文が実際の用例においても散見されるということを確認した。本節では、それらの統語構造をどのように分析するかについて、言語教育面および純理論面の双方を視野に入れつつ検討する。

3. 1. 統語構造について

第1節で述べた通り、拡張二重目的語構文は現行の文法体系では差し当たって[V1 N1 N2] [V2] という連述構造ないし連動文に分類せざるを得ない。しかし、以下の例を拡張二重目的語構文のバリエーションの1つと捉えるならば、その処理の妥当性には疑問が生じる。

- (7) a. 给不了你饭吃
 おまえに飯を与えて食わせることができない
 b. [给不了你饭] [吃] （< [给你饭] [吃]）

もし(7a)を[给你饭][吃]という連述構造に否定辞が加わったものと捉えるならば、その構造は(7b)のようなもの以外に想定し難い。一方、意味的に見ると、“给不了你饭吃”においては“给”のみならず“吃”も否定されていると考えられる。だが、(7b)のような解釈によると、否定のスコープが“吃”にまで及び得るのか、また及び得るのだとしたらどのような仕組みでそれが可能なのか、いずれについても説明に困難が伴う。

ここで、拡張二重目的語構文を連動文の一種とするのではなく、二重目的語構文の一種として捉える案を提唱する。

- (8) a. 给 [你] [饭吃] (< 给 [你] [饭])
おまえに食うための飯を与える
- b. 给不了 [你] [饭吃] (< 给不了 [你] [饭])
おまえに食うための飯を与えることができない

(8a) は、“给你饭吃”において [你] と [饭吃] が目的語を為す二重目的語構文であることを示している。(8a) の [饭吃] は“吃”が“饭”を後ろから修飾しているものとする。この解釈によれば、给 [你] [饭吃] は给 [你] [饭] と選ぶところがなく、両者の違いは“饭”が“吃”(「食うための」)という修飾語を伴っているか否かに過ぎない。一方、以上の解釈を“给不了你饭吃”に応用したのが(8b)である。(8a)の場合と同様、(8b)の给不了 [你] [饭吃] は给不了 [你] [饭] の“饭”に修飾語“吃”が付加されたものと考えることができる。意味の面について言えば、「食うための飯」を与えることが実現しなければ「食う」という行為も実現しないということは自明なので、(7)で問題となった否定辞のスコープは(8)ではそもそも問題とならない。以上のように捉えると、“给你饭”“给不了你饭”“给你饭吃”“给不了你饭吃”の4者をいずれも二重目的語構文として体系的に処理することが可能となる。理論上の妥当性に関しては次節に譲るが、(7)よりも(8)のほうが簡潔明瞭かつ体系的であり、少なくとも中国語教育の現場においては望ましい解釈であると考えられる。

3. 2. 「後置修飾語」の一般性

では、(8)のような二重目的語説を正当化することは純理論的にも可能であろうか。周知の通り、オーソドックスな中国語文法体系においては「修飾語は主要部に先行する」というのが原則である。前節で“饭吃”を“吃”が“饭”を後ろから修飾しているものとしたが、その解釈はこの原則に抵触する。では、原則に修正を加え、中国語に「後置修飾語」なるものを認めることは妥当であろうか。仮に、今回のテーマである拡張二重目的語構文の存在のみを根拠として後置修飾語の存在を認めるとしたら、その処置はアドホックの誇りを免れず、妥当性に乏しい。その妥当性は、後置修飾語と呼ぶべきものが拡張二重目的語構文を越えて中国語にどれほど一般的に観察されるかに懸かっていると考えられる。

拡張二重目的語構文以外において、後置修飾語の存在を明示的または暗示的に認めている先行研究としては以下の諸研究が挙げられる。

王力1985/2014: 117-118は、“次品”(修飾語)が“首品”(主要部)の後ろに置かれた例として以下を挙げる。なお、これ以降下線は全て引用者による。

- (9) a. 所以我不得空儿来请老太太的安。
それで私は奥様にご挨拶に何う時間がなかったのです。
- b. 再想法儿打听东府里的事。

なんとか東府の様子を伺う方法を考えましょう。

また、動詞句が非現実である例としてL&T 1981が挙げているのは、(3c) で見た拡張二重目的語構文の例に限られない。

- (10) a. 我们种那种菜吃。 We raise that kind of vegetable to eat. (L&T 1981 : 618)
 b. 我找学生教。 I'm looking for students to teach. (同上)
 c. 她/他买那本书给你看。 S/He is buying that book for you to read. (同620)
 d. 他们需要夹子夹核桃。 They need pliers with which to crack the walnuts. (同上)

非現実とは、言い換えれば、その動詞句によって表される動作が現実に行われるか否かが全文の命題の真偽を左右しないということである。たとえば、「食べるための野菜を植えた」という命題の真偽を左右するのは「植えたか否か」であり、「食べたか否か」ではない。この意味において、非現実である動詞句は現実 (realis) である動詞句に比して従属的な地位にあるものと考えられる。したがって、L&T 1981の指摘は、事実上(10)の下線部を修飾語すなわち従属節と認めたものと捉え直すことが可能である。(10)の下線部の英訳がいずれも不定詞になっている点がそれを示唆している。

荒川2003:54は、「後ろから前を修飾する」例の存在を消極的にはあるが認め、該当例として以下を挙げる。

- (11) a. 我们还有很多事要做。
 わたしたちはまだたくさんすることがある。
 b. 我找不到事做。
 わたしはする仕事が見つからない。
 c. 我一直都找不出一句合适的话来形容那种感觉。
 わたしはその気持ちを形容する適当な言葉をずっと見つけられない。(以上日本語訳は原文)

次の例は、伊藤2015ではV1 NがV2を賓語とする動賓構造とされているが⁶⁾、V2がNの後置修飾語であるとする立場もあり得る。

- (12) a. 我是传统人，终于下决心结婚了。(伊藤2015:80)
 わたしは保守的な人間で、やっとのことで結婚を決意したんです。
 b. 转念一想，反正自己已经打定主意明早离开，好歹见她一面，顺便把这事交代一下。
 (同87)

ふと、どうせ自分は明朝発つことに決めているのだから、とにかく彼女に一度会ってその件について説明しよう、と思い直した。(以上日本語訳は原文)

伊藤2016は、後置修飾語を含む例として以下を挙げる。

- (13) a. 有饭吃 食う飯がある
 b. 缺饭吃 食う飯に事欠く
 c. 颜宁拿出刀子：“这还是需要刀子来切吧。”
 顔寧はナイフを取り出して言った。「これは切るためのナイフが必要でしょう。」
 d. 同学们能在课堂上感受老师的授课能力，更不应该放弃机会去体验老师的学术能力。
 学生諸君は教室で先生の授業を進行する能力を感じ取ることができるでしょうが、先生の学術上の能力を感じ取るチャンスはなおのこと逃すべきではありません。(以上日本語訳は原文)

さらに、伊藤2017：170は、“叫”を含む次のような例において、“叫”以降の下線部を後置修飾語と捉え得ることを指摘している。

- (14) a. 起了个名字叫“老鼠” 「ねずみ」という名前を付けた
 b. 写了首诗叫《朋友》 『朋友』という詩を書いた
 c. 生了个女儿叫均连 均連という娘を産んだ
 d. 见到一道名菜叫做“红烧活鱼” 「紅焼活魚」という名高い料理を見かける

以上のように、後置修飾語と捉え得る例が出現するのは拡張二重目的語構文のみに限られない。ただし、本3.2節でここまでに後置修飾語として挙げられた例は、いずれもV1 N V2という配列のV2のみに限られている。もし、このような環境にしか出現し得ないのであれば、後置修飾語は限られた環境にのみ現れるものと考えざるを得ず、一般的に認められ得るものであるとはやはり認め難い。

ここで、伊藤2017：169が挙げる次の例に注目されたい。

- (15) a. “人惟求旧，器惟求新”，据《尚书·盘庚》记载，是一位“古贤”叫迟任说的，可见它是相当古老的教条了。
 「人は惟旧なるを求め、器は惟新たなるを求む」とは、『尚書・盤庚』の記載によると遅任という古賢が言ったもので、それが相当歴史の古いドグマであることがわかる。
 b. 有一个夏天，北京的作家叫莫言的去新疆，突然给我发了电报，让我去西安火车站接他。(以下略)

ある年の夏、莫言という北京の作家が新疆に行くに当たり、突然私に電報がきて西安駅に彼を迎えに行くよう言われた。(以上日本語訳は原文)

(15ab)の下線部は、(14)の諸例の下線部と類似しているが、(14)とは異なりV1 N V2のV2ではなく、先行する主要部と共に動詞述語文の主語の一部を為すものと考え得る。(15a)を例に採れば、“一位“古賢”叫迟任”(遅任という古賢)が全体で“说”(言う)に対する主語を為していると考えることができる。このような例は、後置修飾語の出現する環境が拡張二重目的語構文やV1 N V2のみに必ずしも限られないということを示唆し、拡張二重目的語構文やその他の環境において後置修飾語というものの存在を一般的に認めるための裏付けとなり得る。

【注】

- 1) 以下、用例の日本語訳は特に注記がない場合すべて引用者による。
- 2) V1 N1 N2 V2の中には、N2がV2の動作主である例もある。

派给他一个青年做助手(龚千炎1983)
彼のもとに助手となるひとりの青年を派遣する

しかし、第2節の調査では類例が見当たらなかったため、今回は議論の対象である拡張二重目的語構文から除外する。

- 3) http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/
- 4) ここでは“答应”がそれ以下を目的語としているものと捉えたが、“答应给”がV1をなすと捉えることも可能である。いずれの解釈を採ったとしても拡張二重目的語構文には該当する。
- 5) 今回は“是谁给你权力的”の縮約形と捉えてカウントしたが、もし“谁给你的权力”をひとつの名詞句と捉えるならば拡張二重目的語構文に該当しないことになる。
- 6) “下决心是否结婚”(結婚するか否か決意する)“打定主意什么时候离开”(いつ離れるか考えを決める)のようにV2部分が間接疑問文となる例があるため。

【参考文献】

- 相原茂他2016.『Why?にこたえる はじめての中国語の文法書 <新訂版>』。東京：同学社。
荒川清秀2003.『一步すすんだ中国語文法』。東京：大修館書店。
伊藤大輔2015.「V1+N+V2の下位分類—修飾構造・動賓構造と連動構造の境界—」,『中国語教育』第13号：75-95頁。
伊藤大輔2016.「現代中国語の後置修飾構造について」,『目白大学人文学研究』第12号：191-203頁。
伊藤大輔2017.「V+N1+“叫”+N2について」,『目白大学人文学研究』第13号：159-171頁。
輿水優1985.『中国語の語法の話—中国語文法概論—』。東京：光生館。
龚千炎1983.「由“V给”引起的兼语句及其变化」,『中国语文』1983年第4期：241-249頁。
王力1985/2014.『中国现代语法』。北京：中华书局。
张伯江2000.「汉语连动式的及物性解释」,中国语文杂志社编『语法研究和探索(九)』：129-141頁。
北京：商务印书馆。

- 赵金铭1992.「“我唱给你听”及相关句式」,『中国语文』1992年第1期:1-11页。
- 朱德熙1979/1980.「与动词“给”相关的句法问题」,『现代汉语语法研究』:151-168页。北京:商务印书馆。
- 朱德熙1982.『语法讲义』。北京:商务印书馆。
- 朱德熙1983.「包含动词“给”的复杂句式」,『中国语文』1983年第3期:161-166页。
- Li, C. N. and S. A. Thompson. 1981. *Mandarin Chinese — A Functional Reference Grammar*. Berkeley: University of California Press.

(平成30年12月25日受理)